

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム立ち上げ時、職員間で話し合いホーム理念を作り上げたが再度議論を深め「生きる喜び意欲を持って共に歩もう一歩づつ」…笑顔の風が吹き抜ける明るいホーム…を皆で新たに作り上げ実践につなげている。	(評価結果はしらすぎユニットの評価表に記載している)	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には交流していないが、毎月作成している広報紙を回覧板に入れてもらったり、上河内地域自治センターに置いてもらい情報の発信はしている。しかし、地域との交流は難しい状況である。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で参加していただいている方や、広報紙で、理解や支援の方法を説明しているが、今後地域の人々に向けて活かしていく必要がある。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議でご利用者様の状況や行事等について報告したり、それぞれからの情報を交換している。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	上河内自治センターに、申請等で時々訪問しているが、自治センター職員も好意的であり良好な関係を築いている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	普段玄関等に施錠はしていないが、帰宅願望が強く行動的なご利用者様が落ち着かなく不穏時のみ安全確保優先のため、やむを得ず施錠をするときがある。職員全員がどこまで理解しているかは疑問である。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で虐待に繋がっていくような行動について、ホーム長、リーダーが指導をしているが、研修や会議等で学ぶきかいが必要である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	経験の長い職員はある程度理解は出来ていると思うが、経験の浅い職員も居るため学ぶ機会を設ける必要がある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書をもとに説明を行っているが、不安や疑問が発生したときは、その都度、説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様の要望等を聞き取り実現可能な範囲で対応している。ご家族様からは、面会時に希望や要望を聞くようにしている他、アンケートをもとに運営に反映させている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に一度のユニット会議や、ユニットの連絡ノートを活用して、ご利用者様の状況や行事等情報交換を行っている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々、介護、業務に追われているのが現状である。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会はあるが、職員全体となると少なく今後、研修の機会を増やしていく必要がある。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流するきかいは少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご利用者様は何かか会話が成立する方が多いので、話を傾聴し安心して生活できるように支援している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>アセスメントを参考にしたり、話を傾聴し安心して生活できるように支援している。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>アセスメントをとり、ご本人の状況を見極め、ご本人、ご家族の希望を踏まえ支援するように努めている。希望があれば、マッサージ等、他のサービス利用もしている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人が出来る事はして頂き、出来ないところは手伝っている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご利用者様の気持ちが不安定な時など、ご家族様の支援をお願いし、職員と共に支えていくように努めている。</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご利用者様の知人、友人が面会に来られることは少ないが、ご家族様と一緒に親戚の方が面会に来ることもあり、お部屋やフロアで楽しく時を過ごせるように配慮している。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>トラブルが発生してしまう事もあるが、職員が仲介に入り良好な関係を築けるようにしている。しっかりしているご利用者様が他のご利用者様の面倒を見てくださることもある。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一方のユニットでは開所後4件の退所があったが必要なときのための連絡になっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	歌の好きな方とは、一緒に歌ったり、昔の仕事の話をしたり、絵の好きな方が絵を描ける時間を設けたりと一人ひとりの対応を工夫している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様からの情報をもとに把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人のケース記録を作成し、食事量、排泄、入眠状況、訴えや表情などを記録し現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様にはそれぞれ担当職員が決まっているので、生活状況を聞いたり担当以外の職員やご家族から聞き取った要望等を検討して介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録にケアプランを載せ、モニタリングがしやすいように工夫し、職員間で情報を共有したり、連絡ノートを活用したり、会議等で意見を交換し介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望、ニーズに可能な限り対応出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握が出来ていないため、今後把握が必要。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどのご利用者様が職員付き添いで、かかりつけ医となっている協力病院に定期的に受診しており、受診結果はその都度ご家族へ報告している。また必要に応じて専門医への受診もしている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護師が来訪し、ご利用者様の様子や状態を報告し助言等を受けてケアを行っている。また必要に応じてホームへ来て頂き、診ていただいたり、電話等にて助言を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の様子をご家族に連絡を入れたり、面会に行ったりして情報をえている。退院後も安心して生活できるように病院との連携をとるように努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における看取りについては、条件が揃えば対応するという方針を取っており、一方のユニットでは、2件のターミナルケアを実施し、前年度よりは、理解を図れたと思う。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事故発生時のマニュアルはあるが、すべての職員が熟知しておらず、定期的な勉強会が必要であり、急変事故時の判断力も身に付ける必要がある。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接する小規模多機能事業所と、開所後2回の日中想定避難訓練を実施し、誘導はスムーズに行われたが、今後は夜間想定避難訓練も必要である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はご利用者の状態や様子に気お付け、その人に合った声掛けや対応をしている。不適切な対応には、ホーム長やリーダーがその都度注意、指導をしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様は会話ができる方が多いので、ご自分で選んだり、決められる等に働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事時間など、ご利用者様のペースを大切にしているが、時々職員ペースになっているときがある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	そのように支援をしているが、意思表示が困難な場合は職員が支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食全てを職員が作っており、マンネリ化しないように工夫している。皮むきや片づけなどご利用者様が出来る事を手伝って頂いたり、時々、煮物の味付けなども教えて頂くこともある。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全てのご利用者様の食事摂取量、水分量をチェックし、低栄養、脱水に注意をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、週1回の訪問歯科でも歯の手入れや、口腔ケアのアドバイスをうけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツ、パット使用の方が多いがパットを使用せず自立している方もおられる。出来るだけ日中は小さなパットで対応し、排泄チェック表で一人ひとりのパターンを把握し、誘導している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳や水等を飲んでいただき、排便を促したり、腹部マッサージを試みたりしている。食生活等で改善できない場合は、医師に相談し、下剤を服用する時もある。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回以上は入浴出来るようにしている。入浴を希望される方もおられ、出来る限り対応するようにしているが、業務の都合で午後になってしまっている。入浴時には音楽をかける等工夫をしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じて、昼寝の時間を設けたり、就寝時間、起床時間等、一人ひとりに合わせ対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理簿に処方箋を保管し、確認出来るようにしている。変わった事があった場合は記録に残し、医師に報告している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主婦だった方には、お茶を入れて頂いたり、調理のお手伝いをして頂いたり、若い職員などは、味付けを教わったりと、出来るだけ役割を持ってもらえるように支援しているが、職員の認識の温度差もあり、煮詰める必要がある。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週に一度、職員とご利用者様でおやつを買いに外出している。誕生日に外出を計画したり、外食など、前年度よりは、増えてきたが、限られたご利用者様になっている。帰宅願望の強い方には、ドライブ等支援しているが、今後も、増やしていく必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理が出来るご利用者様には、お金を所持して頂き、希望に応じて買い物に出かけている。管理が難しいかたは、ご家族の同意を得て職員が購入している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご本人からの希望に応じて電話が出来るように支援している。手紙のやり取りに関しては難しいところがある。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロアにはユニットごとに対面式のキッチンがあり、ガラス窓が多く明るい感じである。廊下や脱衣室には、天窓があり日中太陽の光を取り入れており、浴室や脱衣室の温度差がないように配慮している。また正月やクリスマスなど、その時々季節感や行事に合わせた飾り付けを工夫している。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアには、六角形のテーブルがあり、ご利用者様同士が話をしやすくなっており、時には職員も混じり談話したりしている。また気の合うご利用者様同士で居室でお茶会をされたり、テレビをみたり、読書をしたりとされている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご自宅で使用していた、馴染みの家具などを、持ってきて頂いたり、ご本人とご家族で相談し使い易いように工夫している。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレなどは、わかりやすいように表示をしたり、立ち上がりやすいように手すりも工夫されている。廊下にも手すりをつけ安全に歩行が出来るように、また居室入口には、足元灯があり安全には配慮している。</p>		